



三つの間の拡大

教頭 増渕 敦男

生徒の学校生活において、三つの間が大切であると言われてま

まず時間です。長い生徒は一日十二時間以上、短い生徒でも八時間は学校において生活しています。通学時間を入れれば、あと一・二時間増えます。また違う意味での生活時間も、高校時代に拡大します。それは現在・過去・未来です。物心ついた時から現在までの過去や、未来への想いは特に大きく膨らみます。生徒は、学校において多くの時間を過ごし、将来の夢を描き自己実現に努めます。

次は空間です。学校には、普通教室・特別教室・体育館や校庭等の、活動の場としての空間があります。ほとんどの生徒が、自転車を通う田園風景も大事な空間です。また違う意味での生活空間も拡大します。市町村から県・国へ。想いは世界や宇宙

へと。現在は、高校時代に海外での生活を体験する生徒が多数おり、見聞を広げています。最後の間は、仲間です。生徒達は、授業・クラス活動・生徒会活動や部活動等において、県内から通う多くの同世代と出会い、心通わせ仲間になります。同学年の横のつながりや、先輩・後輩の縦のつながりが拡大します。

同級生の結婚式で、校舎・体育館・校庭等をビデオや写真にして写したいという、卒業生からの問い合わせが、この一年半の間に多数ありました。

卒業してからも続く絆です。また、校外活動等において、本校以外の仲間も拡大しました。昨年本校は、新教育目標を策定し、目指す学校像を「文武一致」の教育を実践する学校としました。「文」は知識や知恵、「武」は行動力や精神力としての位置付けです。

三年間の高校生活は、時間・空間・仲間を拡大していきます。「若い」という漢字は「苦しい」字に似ています。

本校生が、成功・失敗・試行錯誤・チャレンジを繰り返しながら、迷い苦しむ多くのことを学び、日々成長して立派な大人になると信じています。



『出逢い』

PTA副会長 荒川 和江

「友だち百人出来るかな戸」こんな歌のフレーズがありましたね。

私たち人は、一生涯に何人の人と出逢えるのでしょうか。良くも悪くも『出逢い』は、その人に影響を与えます。特に高校時代の『出逢い』は「生き方」をも左右するのではないのでしょうか。

子どもは沢山の人に育てられると言いますが、我が息子もこの宇南高での三年間で、部活動の仲間やクラスメート、先輩、後輩、OB、先生方や地域の方々など沢山の人と出逢い、確実に育ちました。

学校が教え、育てる教育の場であるならば、家庭は養い、育む養育の場であり、その共通の「育」を目的にする双方を連結するのがPTA活動だと思えます。一人の子どもを育てるために親(P)と先生(T)が協力

をする、そんな信念から微力ではありますが、PTA活動に協力、参加させて頂きました。

私自信も、息子二人が宇南高に進学してくれたおかげで、五年間に渡り学校行事やPTAの研修会などに参加し、沢山の人の「出逢い」がありました。色々な見聞を豊かにさせて頂きました。時には意見交換をしたり、愚痴を聞いてもらったり、他校のPTA会員の方々と交流をさせて頂いたり、意義深いPTA活動となりました。特に息子達が所属していた野球部の保護者の方々は、公式戦の応援や遠征などを通して、喜びや悔しさを共有させて頂いた、格別な「出逢い」でもありました。

間もなく息子も、この宇南高を巣立って行き、これから先、今まで以上に沢山の人の「出逢い」が待っています。全ての出逢いに無駄な出逢いはなく、尊敬する人、一生付き合う人、意気投合する人、価値観の違う人、反面教師な人、苦手な人など様々な人と沢山の「出逢い」を積み重ねて、自分らしさを形成していつともらいたいと願っています。また親として、子ども達がどんな人と出逢うのか楽しみにしています。

宇南高で出逢った保護者の方々、先生方に感謝。そして、子どもにも感謝です。来春には息子と共に、私もPTA活動を卒業いたしますが、これからの『出

逢い』も大切にしていきたいと思えます。

合同支部会活動報告書

東支部長 岡本 恭子

五月十七日 運営委員会にて、文化祭参加が決定。

野菜(胡瓜の漬物とトマト)の販売。

七月五日

支部長・副支部長(三名)で文化祭の参加者・時間配分・販売配置図などの話し合い。

八月六日

支部会議を行い、文化祭についての最終調整。

九月一日

文化祭参加

第二体育館入口にて、胡瓜の漬物とトマトの販売。

十月十八日

運営委員会にて文化祭の活動報告と反省

十一月七日

マラソン大会の協力



栃高連P連(五十三回) PTAハイスクール



十月二十四(二十五日)の二日間にわたり、日光市において開催されました。第一日目は、足利工業大学(生命システム学系)の小林敏孝教授が「心身の成長における睡眠学習の重要性」と題し、講演を行いました。

日本人の平均睡眠時間はこの四十年間に約一時間短くなっており、睡眠不足の状態に陥っています。不眠や睡眠の質の低下は子供の脳にも影響があり、学習意欲の減退やイライラ感の増強などにも睡眠習慣の乱れが起因しています。第二日目は、宇都宮東高校・同付属中学校と栃木高校のPTAから、研究協議の発表がされました。宇都宮東高校・同付属中学校PTAは「学校と共に築くPTA」中高一貫校の特色を生かした活動を目指して、そして栃木高校PTAからは、「よりよい信頼関係を築くための取り組み」信頼される学校信頼する保護者」と題して先生とPTA役員からパワーポイントを使ったお話がありました。

全国高P連大会 山口大会

関口 日出夫

八月二十一日(二十二日)の二日間に渡り、第六十三回全国高等学校PTA連合大会山口大会が行われました。メインテーマは「夢から志へ」サブテーマは「たくましく生きるチカラを育むために、今、私たちができること」でした。基調講演は「日本の教育再生」と題し、安倍晋三内閣総理大臣がビデオ出演し、下村博文文部科学大臣の講演と云う豪華な顔ぶれでした。私たちは、特別第一分科会に、熟議(地域社会総がかりで教育現場を支える)に出席し、災害に強い学校づくりと題し課題を挙げながら討議をしましたが、全国のPTAらしく、地域特性のあるお話が聞けて大変参考になりました。

関東高P連大会 埼玉大会

萩原 久美子

第五十九回関東地区高等学校PTA連合大会が、七月三日(水) 四日(木)の二日間、埼玉県の大宮で開催されました。関東各県のPTA代表者が、未来を彩れ 人の輪で」をテーマに、PTA活動について情報を交換し合いました。

大会の初日は、全体会を脳科学者の茂木健一郎氏による記念

講演が行われました。子ども自身が生き方や進路を掴み取らなくてはいけないこと、親は人生の先輩としてどっしりと構え、子どものピンチの時に手を差し伸べるスタンスでいるのが良いのではないかと、なども考えさせられることが多い講演でした。二日目は栃木県と千葉県で第二分科会「進路指導とPTA」に参加し、各校のPTA活動と今後のPTAのあり方を考えました。

毛糸の「コケ玉作り」しました PTA研修会 研修部

齋藤 さゆり

十月十二日(土)、第二回目の研修会として、「毛糸コケ玉」作りを実施しました。多肉植物をコケで包み、その周りを毛糸で球にしたものですが、植物の種類、毛糸の色などで、同じ者は一つもなく、さまざまなお話が出来上がりました。

初めて「毛糸コケ玉」作りを行いました。参加者の方々が喜んでくれて、ホッとしました。



9校球技大会 厚生部

七月七日(日) 雀宮中学校において9校球技大会が開催されました。今年度より宇都宮工業高校が加わり更に活気ある大会となりました。バレーボールは一勝一敗。ソフトボールは二勝し三位と好成績を収めました。暑い中、朝早くからご協力いただいた皆様、大変お世話になりました。

PTA交通街頭指導 生活指導部

PTA交通街頭指導について

生活指導部部長 瀧川 裕子
生活指導部として朝の交通指導に立つのも、早いもので三年目になりました。三年間どこに立つても、安全と感じられる場所はなく、緊張感を持って毎回立っています。

宇南の生徒の大半が自転車です。学校に通っていますが、自転車のマナーは残念ながら良いとは言えません。雨の日はカッパを着て、きちんと一列で走行している生徒もいますが、二列になつての並列走行や、雨の日の傘さし運転や、イヤホンを耳に付けて走行する生徒の姿が、まだまだ多く見受けられます。

そんな生徒たちに対して、先生方も少々厳しく指導しますが、本当に危険だと感じて注意しているの、生徒の皆さんは、自分の身の安全を守るためにも、注意されたことについてよく考えてほしいと思います。

私たち生活指導部が生徒たちの通学の安全を見守れるのも、九月と十二月のそれぞれ三日間という短い期間ではありますが、これからの生徒たちの一人一人に声をかけ、通学途中で事故にあわないよう、先生方のご協力のもと、交通街頭指導にあたっていきたいと思います。



健闘! バレーボールチーム

3位入賞のソフトボールチーム